

道徳のひろば

道徳科の観察授業

小学校では、入学から卒業までの「特別な教科道徳」として、6年間で209時間の道徳の学習をすることになっています。内容は主に4つあり、「A：自分に関すること」「B：他人に関すること」「C：集団や社会に関すること」「D：生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」で、各学年の発達段階に沿った教材を用いて学習します。道徳の授業は、教育の目的である人格の完成（人間形成、人づくり）の要になる学習です。

先週は、道徳科の授業観察をしました。全学級、年度当初と比較して、子どもたちの発表内容が深まり、先生や友達の話聞きとり、自己との関わりの中で発表できる子どもが増えています。また、自ら考えたこと、感じたことを相手に分かりやすく伝えることもできるようになってきているようにも感じました。

＜各学年の観察授業の教材と道徳的価値＞

☆なかよし2	「けいじばんの らくがき」	：善悪の判断・自立・自由と責任（A）
☆1年1組	「けいじばんの らくがき」	：善悪の判断・自立・自由と責任（A）
☆1年2組	「はしの 上のおおかみ」	：親切・思いやり（B）
☆2年1組	「なつこが生まれたころ」	：生命尊重（D）
☆2年2組	「おじさんの てがみ」	：規則の尊重（C）
☆3年	「きよしのなやみ」	：善悪の判断・自立・自由と責任（A）
☆4年	「ゆめはみるものではなく、かなえるもの」	：希望と勇気・努力と意志（A）
☆5年	「牛乳配り」	：勤労・公共の精神（C）
☆6年	「太平洋の橋になりたい」—新渡戸稲造—	：国際理解・国際親善（C）

また、何度か紹介していますが、子どもたちの実態も踏まえ、本年度、道徳実践活動の重点項目を以下の3点にしぼってとりくんでいます。

- 学校をきれいにする子ども
- 元気なあいさつができる子ども
- 安全な行動ができる子ども

道徳教育を推進するためには、家庭・地域との連携・協働が不可欠です。学校としては情報提供に努め、常に家庭・地域との信頼関係を築きながら、学校・家庭・地域ができること、すべきことを、子どもたちの姿を中心に据えて話し合っていく必要があると考えています。



道徳の授業風景

